

ディビジョン番号	19
ディビジョン名	化学教育

大項目	5 化学普及
中項目	5. 2 博物館・科学館の役割
小項目	

概要
<p>各地に設立されている理工系博物館や科学館は新たな科学（化学）教育の拠点と捉えることができ、学校教育だけでは得られない科学（化学）の本当のおもしろさが伝えられることが期待される。そのためには、人的資源・予算を充実させ、サイエンスコミュニケーターを登用できるようにする必要がある。また、科学館を、一般市民と大学・企業・学協会と結びつける場として捉え、学協会がコーディネーター、リエゾンの役割を果たすことも重要であろう。</p>
背景
<p>我が国の理工系博物館・科学館としては、国および関連法人が運営している国立科学博物館、日本科学未来館、科学技術館の3館のほか、主として地方公共団体および関連団体が運営しているものが各地に多数あり、地域の理科教育、科学普及の一翼を担っている。1980年代の“科学館ブーム”時に開館したり、リニューアルオープンしたものが多く、それらは米国のエクスプロトリウムの影響を強く受け、体験型のハンズオン展示を多く取り入れている。</p>
課題と問題点（800字以内）
<p>博物館・科学館の重要な機能に、展示（常設展、企画展等）、普及講座（実験教室、講演会等）、教材・教育プログラムの開発など、科学（化学）教育の面から見て重要なものが多く、地方公共団体により設立されたものは地域密着性が高く、その科学教育への影響は大きいものがある。学校教育と密接な関係を持つことは重要であるが、単に学校教育を補完するだけでなく、教育課程に縛られずに自由な発想に基づいて、科学の分野で重要でかつ興味深いものを提示することにより、科学の本当のおもしろさを伝えることができる施設になると考えられる。学校では体験できないようなこと、すなわち、実物を見、現象に触れたりできるようにすることが重要である。そうした努力は各館のスタッフにより行われている。しかし、学芸員など専門的なスタッフの配置が少ないのが現状であり、特に化学系のスタッフの配置が少ないように思われる。体験的な展示が多く取り入れられているが、限られたスタッフ・予算では、維持・管理が難しい面もある。一方、博物館・科学館のもつ重要な役割として、大学などの研究機関、学協会、企業と学校現場、子どもたち、一般市民とをつなげるということが挙げられる。最近、大学などで体験入学や公開講座など数多く開催されるようになったが、博物館・科学館のような身近な施設で、定常的に行うことも重要であろう。従来、こうした協力関係は、個人的なつながりにより保たれていることが多かったが、学協会がそのパイプ役をつとめることも重要に</p>

なってくると考えられる。科学館は各地にあり、かつ、最近、各地の教育センターなどが縮小される傾向にあることを考えると、科学館が新たな科学（化学）教育の拠点として位置づけられると考える。最近、化学工業協会が夢化学事業により各地の科学館などに講師を派遣したり、大学や化学会各支部が地域の科学館と協力して各種事業を実施していることは評価でき、今後さらに積極的に進めていくことが望まれる。

#### 対処方法と解決方法（400字以内）

博物館・科学館を学校現場や一般市民と大学・研究機関・学協会・企業をつなげる新たな科学（化学）教育の拠点として捉え、人的資源や予算を充実させる。特に、サイエンスコミュニケーターとして訓練を受けた人材が正規の職員として雇用され活躍できる施策をとる。また、博物館・科学館と大学・研究機関・学協会・企業をつなげることを積極的に推進する。特に、そうした関係を望む科学館に対して化学会などの学協会が窓口になりコーディネーターないしリエゾンの役割を果たす。

#### 今後推進すべき課題

- ・ 専門的スタッフの充実、予算の拡充。
- ・ サイエンスコミュニケーターの積極的登用。
- ・ 大学、学協会、企業などと博物館・科学館、小中高校とのより密接な協力関係（コラボレーション）の構築。

#### キーワード

化学教育拠点、コラボレーション、サイエンスコミュニケーター、リエゾン

（執筆者： 若林 文高）